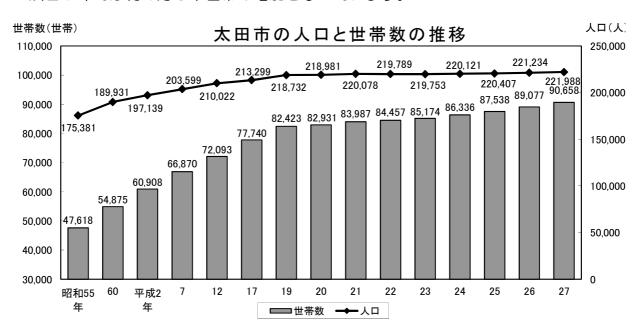


統計から見た現状

(1) 人口及び世帯数

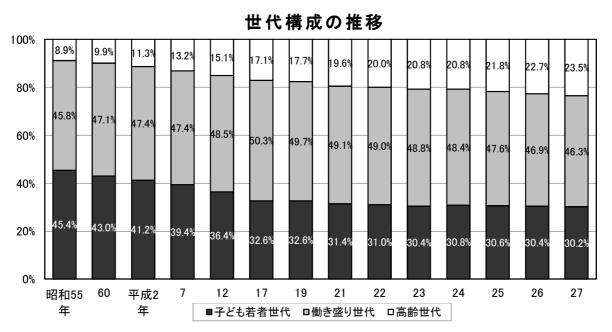
人口を見ると、年々増加しており、昭和55年に比べ平成27年では約4万6千人の増加となっています。また、世帯数も年々増加しており、昭和55年に比べ平成27年では約4万3千世帯の増加となっています。



※出典:昭和55年~17年は国勢調査(ただし、昭和55年~平成12年までは、旧太田市~旧新田町、 旧尾島町、旧藪塚本町の数値を合計)、平成19年~太田市統計より 基準日3/31

(2) 世代構成

世代別の人口割合を見ると、昭和55年に比べ、平成27年は、こども若者世代(O歳~29歳まで)が15.2ポイントの減少、高齢世代(65歳以上)は14.6ポイントの増加となっており、少子高齢化の傾向が見られます。

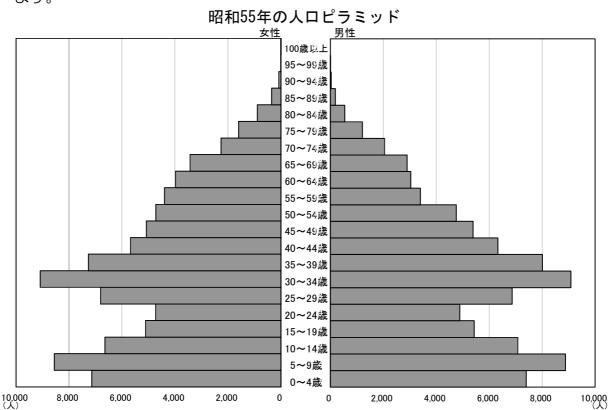


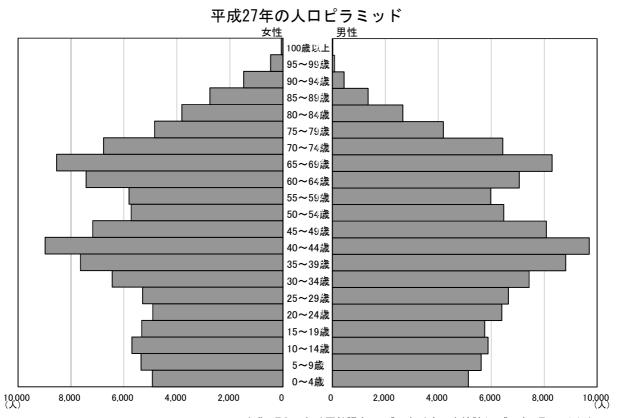
※出典:昭和55年~17年は国勢調査(ただし、昭和55年~平成12年までは、旧太田市~旧新田町、 旧尾島町、旧藪塚本町の数値を合計)、平成19年~太田市統計より 基準日3/31



(3) 人口ピラミッドの変遷

昭和55年の人口ピラミッドは通称「星型」と呼ばれ、ベビーブームを反映し、 9歳以下及び30歳から39歳が多くなっています。一方、平成27年の人口ピラミッドは「釣鐘型」と呼ばれ、こどもが少なく壮年期、前期高年期が多くなっています。

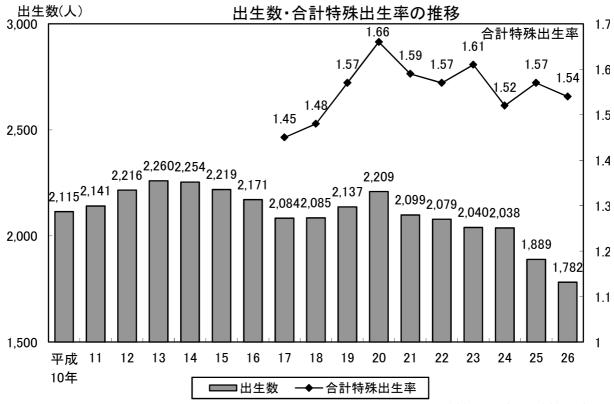




出典:昭和55年は国勢調査、平成27年は太田市統計(平成27年3月31日)より

(4) 出生数の状況

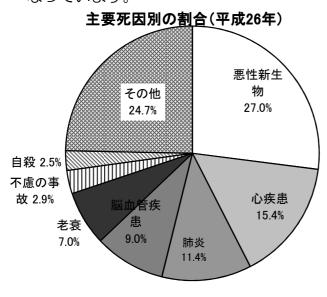
平成20年をピークに出生数は減少している。



※出典:健康福祉統計(群馬県健康福祉局) 合計特殊出生率は合併後太田市の出生数の数値

(5) 主要死因別死亡者数の割合

悪性新生物(がん)の割合がもっとも高く、心疾患、肺炎、脳血管疾患の順になっています。



年 原因	平成17年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	
悪性新生物	504人	540人	532人	575人	532人	
心疾患	246人	305人	307人	273人	304人	
肺炎	199人	231人	243人	233人	225人	
脳血管疾患	260人	211人	202人	197人	178人	
不慮の事故	69人	58人	66人	65人	58人	
自殺	59人	43人	50人	64人	49人	
老衰	老衰 43人		107人	106人	137人	
その他	383人	484人	512人	461人	486人	
死亡総数	1,763人	1,958人	2,019人	1,974人	1,969人	

※出典:健康福祉統計(群馬県健康福祉局)

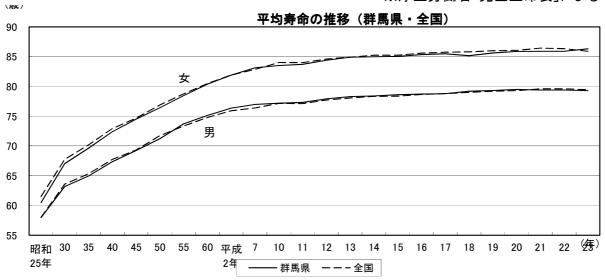


(6) 平均寿命の比較と推移

平均寿命の比較

区分	入	,性	女	性	男	性	女	性	
国勢調査	Ē年	平成17年			平成22年				
太田市	f 78	3.5歳	85.0歳		78.	8歳	85.6歳		
群馬県	艮 78	. 78歳	85. 4	17歳	79. 4	40歳	85. 9	91歳	
全国	78	. 79歳	85. 7	75歳	79. 5	59歳	86. 3	35歳	

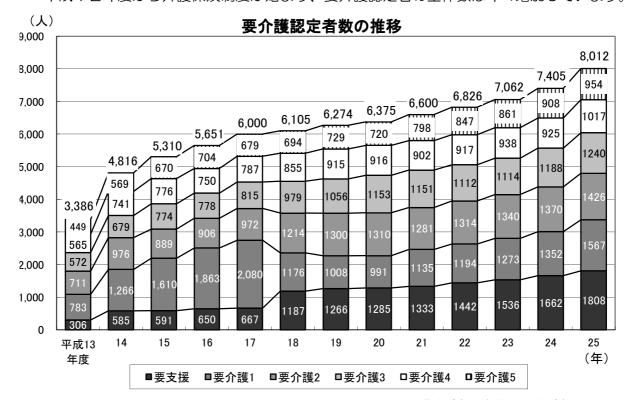
※厚生労働省「完全生命表」による



※出典:健康福祉統計(群馬県健康福祉局)

(7) 要介護認定者数の推移

平成12年度から介護保険制度が始まり、要介護認定者の全体数は年々増加しています。



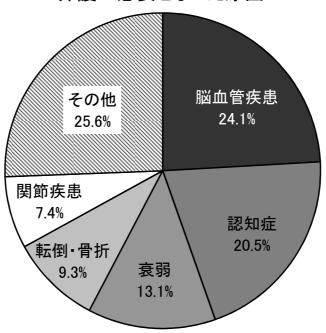
※出典:健康福祉統計(群馬県健康福祉局)



(8) 介護が必要となった原因

脳血管疾患が24.1%と最も多くなっており、4人に1人となっています。続いては認知症の20.5%、衰弱の13.1%となっており、転倒・骨折は9.3%となっています。

介護が必要となった原因

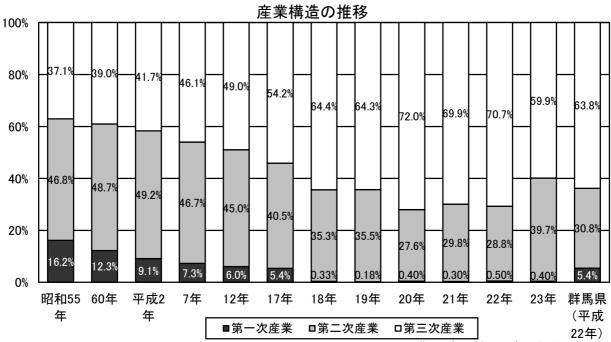


※出典:群馬県高齢者保健福祉計画(平成22年)



(9) 産業別就業人口(15歳以上)

太田市の産業別就業人口の割合の推移を見ると、第一次産業(農林水産業など) は年々減少しており、第二次産業(製造業など)も近年減少傾向にありましたが、 23年には増加しています。



※出典:国勢調査(平成17年まで) 平成18年~太田市統計より

第一次産業・・・・農業・林業・水産業

第二次産業・・・・鉱業・製造業・建設業

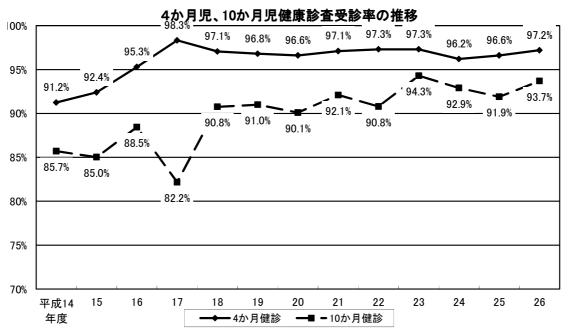
第三次産業・・・・商業・運輸通信業・金融保険業・公務・自由業など その他のサービス業

保健事業の現状

(1) 4か月児、10か月児健康診査受診率の推移

4か月児健康診査の受診率は平成16年度から95%を超え横這いに推移し、 平成26年度は97.2%になっています。

10か月児健康診査の受診率は平成18年度から90%台で推移し、平成26年度は93.7%になっています。

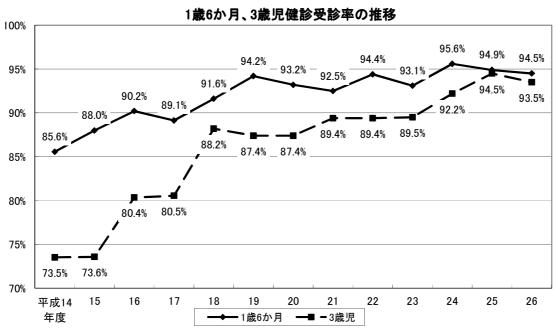


※出典:母子保健事業報告(群馬県健康福祉局)

(2) 1歳6か月児、3歳児健康診査受診率の推移

1歳6か月児健康診査の受診率が平成26年度は94.5%になっています。

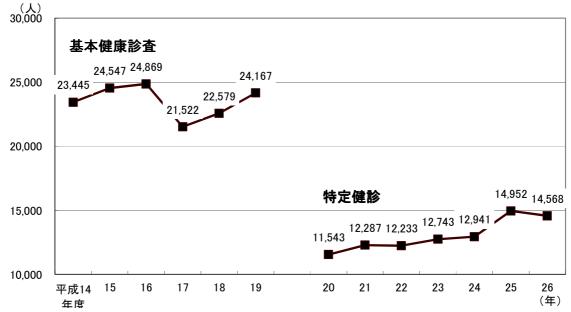
また、3歳児健康診査は1歳6か月児健康診査に比べると受診率は低くなっていますが、平成16年度から増加して、平成26年度は93.5%になっています。



※出典:母子保健事業報告(群馬県健康福祉局)

(3) 基本健康診査(40歳以上)→特定健診(国保加入者40歳以上75歳未満)

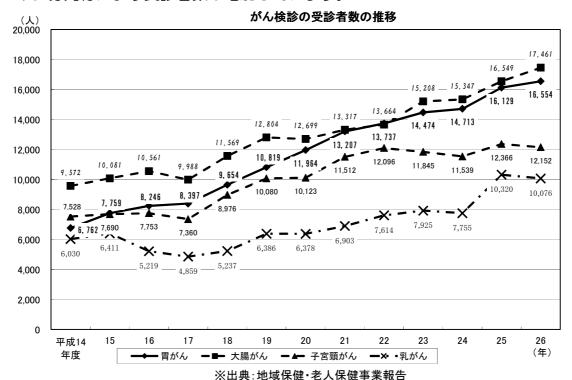
平成19年度までは老人保健法による基本健康診査であったが、平成20年度から特定健診へ移行し、対象者が国保加入者となりました。



※出典:地域保健・老人保健事業報告(平成19年度まで) 法定報告(平成20年度から)

(4) 各がん検診受診者数の推移

がん検診の受診者数は概ね横ばいで推移しており、近年増加傾向にあります。 子宮がん、乳がん検診は平成21年度から、大腸がん検診は平成23年度から無料クーポン券発行により受診者数が増加しています。



《四典: 地域保健・を入保健争未報告 地域保健・健康増進事業報告(但し、胃がんは内視鏡、乳がんは視触診を含む)

※乳がん検診は平成16年度から対象者が30歳以上から40歳以上の女性に変更。

※子宮頸がん検診は平成17年度から対象者が30歳以上から20歳以上の女性に変更。 (但し、集団検診は平成20年度から変更)